

## 「日本介護福祉士会倫理綱領に関する調査」結果の概要と総括

2023年3月30日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

日本介護福祉士会倫理綱領（以下「倫理綱領」）が制定されてから、27年が経過します。本調査では、倫理綱領の現状を把握することを目的に、介護福祉士有資格者として会員がどのくらい倫理綱領を認識しているか、実践とどのように結びついているかを把握することを目的に、運営サポーターを対象とする調査を実施しましたのでご報告いたします。

### 【主な結果の概要】

#### 1. 回答者は仕事をするうえで倫理綱領をよく意識し、実践している

倫理綱領に対する意識や実践について、回答者の多くが意識または実践していると回答していた。倫理綱領の各項目の意識と実践の状況については、いずれも「プライバシーの保護」が最も高く、「地域福祉の推進」が最も低かった。

#### 2. 倫理綱領を意識できていない理由として、倫理綱領のわかりづらさがある

倫理綱領を意識できていない理由として、仕事の忙しさや倫理綱領の各項目について、意識せずとも自然に実践しているという回答の他に、現場に余裕がないことや業務との関わりが薄いことや、倫理綱領自体がわかりづらいことが記されていた。

#### 3. 倫理綱領の意識・実践について、回答者と勤務先の状況に違いがある

倫理綱領に対する意識や実践について、回答者自身の状況と、職場の状況（回答者の認識による）を比較すると、「利用者ニーズの代弁」「専門的サービスの提供」「利用者本位・自立支援」は職場の方が約30ポイント低かった。

#### 4. 勤務先が倫理綱領を意識できていないと思う理由として、倫理綱領に対する受けとめ方の違いがある

倫理綱領を意識できていない理由として、職員が倫理綱領自体を知らないこと、後継者育成が十分でなく倫理綱領が活かされていないこと、倫理綱領は介護福祉士個人に向けられたもので倫理綱領をもとに法人の理念を作成していないこと、法人の倫理綱領が主になること等が記されていた。

#### 5. 職場で起きた倫理の問題は、職員の身だしなみや利用者の呼称、身体拘束まで幅広く存在する

職場のなかで起きた倫理の問題について困ったことや判断に迷ったことについて、職員の身だしなみや SNS への発信内容、利用者の排泄のことを大声で話すこと、服薬拒否がある利用者への支援、事故がないように身体拘束に近い状況があること等が具体的に記されていた。

### 【総括】

- ・ 介護福祉士が専門職として質の高い介護を実践するためには、高い倫理観が必須となるが、倫理綱領をどのように活用することが望ましいのかについて、倫理綱領の意義を再確認したうえで、会員に周知することが必要である。
- ・ 自由記述からは、介護福祉士を取り巻く環境のなかで倫理にかかわる問題は幅広いことが示唆された。介護福祉士自身の倫理性の維持・向上を図るために、倫理綱領の見直しの要否のほか、学習方法及び周知方法を含め、倫理綱領のあり方を十分に検討することが望まれる。介護福祉士だけでなく、介護現場や教育現場で活用いただくことで、広く介護の質を高める取り組みをめざしたい。